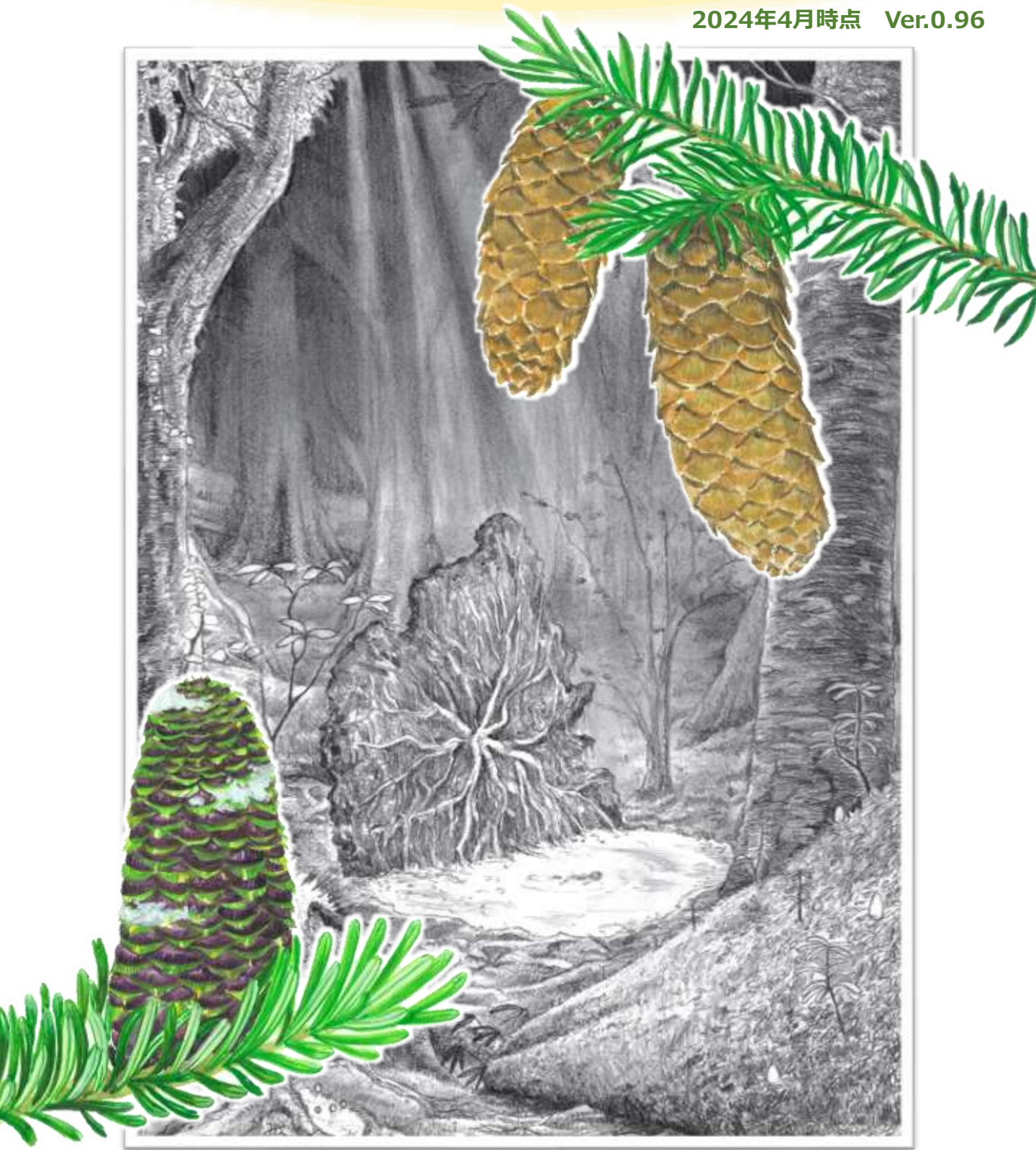




2024年4月時点 Ver.0.96



発行：林野庁 北海道森林管理局

絵・編集：平田美紗子(北海道森林管理局職員)

四季の観察ポイント

春

雌花は前年の
枝につく

雄花



ヤチダモとの間を
行き来する
トドノネオオワタムシ
(雪虫)

夏

受粉した雌花は
成熟して暗紫色になる
葉の先は二つに分かれ
裏には2本の白線が
目立つ



秋

完全に熟した
松ぼっくりは種子を
飛ばしてバラバラに
なり芯だけを残す



種子

冬



冬芽は松ヤニに覆われる

樹皮にも
松ヤニが
つまった
ヤニツボ
がたくさん
ある



枝は毎年一段ずつ
輪のように広がる

葉を食べる
エゾモンガ

共生するモミタケ



トドマツは北海道で一番木材としての量が多い木です。寒さにも強く、少ない光のもとでも耐えますが、その分成長は遅く、苗木を作るのに4年もかかります。幹から出る枝が上を向くことから「とどけ」とけの「トドマツ」と覚えませす。木の内部に水分を多く含むため冬の寒さが厳しい日には、内部の水が凍って幹が割れる「凍裂(とうれつ)」が起ることがあります。



トドマツ

マツ科
モミ属
樹高 30m



わくわく本物の木のツリー!!

も〜み〜のき〜のき〜

北海道のモミと
いえばトドマツ。

葉先がやわらかく
枝が上を向く
トドマツはツリー
に最適だね。

なんかすっきり
みかんみたいな
香りがする!

トドマツから

はアロマ

オイルが

取り出せるの。

冬の乾燥した空気
をきれいにし
てくれるのよ。



寒さに強く、少ない光でも
成長できるトドマツは
北海道の森からのおくりもの。



樹皮も白っぽい
灰色できれいさ

材も白くてきれいなんだ。

軽くて
柔らかくて
加工しやすい
から
建築材など
として重宝
されてきたよ。

トドマツとへんりつながら

トドマツの材は木目がまっすぐで白く、軽く柔らかいことから、加工しやすいため、家の柱や板など建築材・土木材として利用されてきました。

また昔は魚を入れる魚箱や、お棺・お墓に立てる卒塔婆（そとば）にも使用されていました。



近年はLIT工法など新しい加工法の発達で、中高層建築への応用も期待されています。

アイヌ民族とトドマツ

トドマツの名前はアイヌ語で「ハイマツ」を意味する「トトヌブ」を間違えたとする説があります（実際は「フブ」といいます）。

冬場の狩りの時には、トドマツの枝で狩り小屋の屋根を作ったと言われています。

四季の観察ポイント

春

雌花は前年の
枝先につく



雄花

幹の中の
虫を食べる
クマゲラ



エゾマツ

マツ科
トウヒ属
樹高
30~40m

夏

葉は先がとがる
葉の付け根には
凸型の突起(葉枕)
が目立つ



秋

完全に熟した
松ほっくりは
枝先に
垂れ下がる



種子



冬

冬芽は三角で松ヤニに覆われる



幹を食べる
ヤツバキクイムシ



樹皮はアカエゾマツと
比べてなめらか

枝は垂れ下がり
トドマツより
優しい印象



種を食べるエゾリス

エゾマツは高さ40mにもなる北海道の森の屋根を支える針葉樹で、「北海道の木」に選ばれています。幹から出る枝が垂れ下がることから「天まで届かんでもえーぞのエゾマツ」と覚えさせます。光の届かない環境にも耐えることができず、小さいときの成長は遅く、大きく成長するには明るい環境を必要とします。地面の上では種子が菌の害を受けて発芽できないため、倒れた木や切り株の上に芽生えて成長します。根が浅く水分を好むため、乾燥した土地では育ちません。

見てみて木が一行に並んでいるよ!

エゾマツ

今日は登山に
来ています。

あれは
エゾマツの
倒木更新だね

エゾマツの種や幼い木は
菌にとっても弱いから

木の上にとげ〜

ホッ

運よく倒れた木の上に
落ちた種だけが
生き残れるんだ。

成長して根元の
木がなくなると
空洞ができて
「根あがり」に
なることもあるよ。

エゾマツは成長が遅く、苗木を育てるのに6年もかかるうえ、霜や病虫害に弱いことから、造林が難しく数が減ってきた。

しかし「北海道の木」として親しまれ、材としても優れたエゾマツを回復させようと様々な取り組みが進められているよ。

エゾマツは40mにも育つ森のシンボルだ

未来に残していきたいね

あ!
クマガエラだ。



コンテナ苗での成長試験

エゾマツとくらしのつながり

エゾマツは木目がまっすぐで美しく、曲げ加工がしやすいことから、建築材や家具材、ギターやバイオリンといった楽器材に活用されてきました。



また繊維が長い
ため、パ
ルプ材にも最
適です。

アイヌ民族とエゾマツ

エゾマツの枝は垂れ下がり、屋根のようになることから、冬にエゾマツの下で火を焚くことで命が助かった話があります。また松ヤニはあかぎれの薬にしたそうです。



四季の観察ポイント

春

雌花

雄花は枝の先に垂れ下がる



生木を食べる
シロスジカミキリ
(北海道では少数)

夏

果穂は葉のわきから垂れ下がる



秋

葉は黄葉し、果実は茶色く熟す



種子

シラカンバの根には
ベニテングタケが
共生しているため
林内によく発生する



樹液を吸うエルタテハ

冬



樹皮には黒い
「へ」の字模様が目立つ

シラカンバ

カバノキ科
カバノキ属

樹高
20～25m

幹に空いた穴は
アカゲラや
モモンガの
巣穴になる



シラカンバは北海道を代表するバイオニア樹種です。バイオニア樹種とは新しく開けた土地に、いち早く入り込んで旺盛な成長をする木のことです。山火事や台風等の被害跡地に一斉に入り込み純林を作ります。光を好み成長が速いシラカンバですが、光が届かない場所では成長できず、寿命も百年程度と、ほかの木と比べて短いです。

今日は、
キャンプに
来ています。



おシラカンバの倒木だ。
キャンプファイヤーに
使えるな。

カバのなかまの樹皮は
もえやすいから、
たきつけに最適なんだ。



チノイエタツ 柄は
アコロモ

ほほう、
アイヌの人たちは、
シラカンバのなかまの
ウダイカンバの皮を、
松明にしたんだよ。



アイヌ民族
北海道に居住する
先住民族。昔は、
物々交換と狩猟採集で
生活した。



ひしゃくのお椀部分にも

シラカンバの樹皮は、
はだ目が細かくて、加工
しやすいから、細工品に
使われたりもしたんだ。



だめっ
こんなにきれいに
むけたんだもん！

じゃあ、
そろそろ
たきつけを...

シラカンバは水分を多く含むため、春先の雪解け前に幹に穴を空けて樹液を集めることができます。この樹液はほんのりと甘く、煮詰めるとシロップになり、健康飲料水や化粧品にも活用されています。

樹皮は工芸品や着火剤として利用される他、材は木目が美しく柔らかいことから、内装材として活用されています。

シラカンバとくまのつながり



アイヌ民族とシラカンバ

アイヌ民族も春先にシラカンバの樹液を採取し、そのまま飲むほか、お酒造りにも活用していました。

四季の観察ポイント

春



真っ白な花が
雪が積もったように咲く



実ができてはじめる

夏



冬



冬芽

トドマツとの間を
行き来する
トドノネオオワタムシ
(雪虫)



アオダモ

モクセイ科
トネリコ属
樹高
10～15m

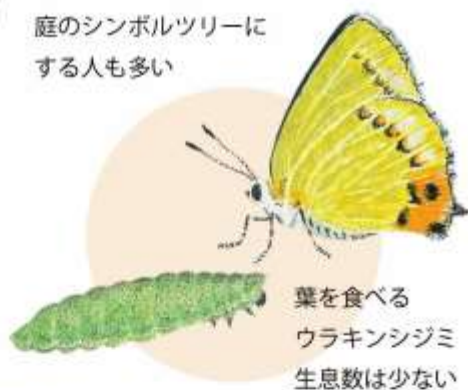
秋

熟した種子は風に乗って
散布される



数年に一度
豊作になる

涼しげな立ち姿のため
庭のシンボルツリーに
する人も多い



葉を食べる
ウラキシジミ
生息数は少ない



樹皮は平滑で
白い斑点がある

アオダモは成長の遅い木で、成木になっても高さは10m位、胸高直径も30cm以下がほとんどです。
乾燥に弱いため湿気を含む肥えた土地を好みます。とても萌芽力(切り株等から新たに芽を出す力)が強く、幹が折れてもすぐに萌芽を発生させます(折れていなくても萌芽を出すこともあります)。
アオダモの「アオ」は樹皮を水に入れると青くなることから、「タモ」は材が粘り強い「たわむ木」から名がきたといわれています。

おじいちゃん
何して
いるの？

これはな、
ワシが初めて
もらった給料で
買ったアオダモの
バットじゃ。

昭和50年代、日本製バットのほとんどの材は北海道産じゃった。

多くはセンノキやヤチダモじゃったが、バット材として最適なのはアオダモじゃ。



特に雪が少なく寒さが厳しい日高や阿寒のアオダモは最高級なのじゃ



アオダモバットは粘りがあって割れにくく、軽量で振りやすい。そのため長年プロ選手に愛用されてきた。

しかし天然のアオダモは成長するまで60年もかかる。次第にアオダモの木はなくなっていくた。



そこで近年、アオダモを植えて育てる活動が始まった。

アオダモ植樹祭



数十年後、北海道が再び「バット王国」となるかもしれんのお。

大事にしてきたからピカピカなんだね。

まあのお

はははは

補欠でほとんど打てていないからよね。



アオダモとくしとのつながり

アオダモの材はとても粘り強く、木目もつまっていて曲げても折れないため、野球のバットの他、テニスやバドミントンのラケット材としても活用されます。

昔はマサカリの柄、雪の上を歩く時のかんじきにも利用されました。



アイヌ民族とアオダモ

アオダモは生でもよく燃えるため、アイヌ語で「山の神のたいまつ」の名をつけられています。

また樹皮を水に入れると青くなることから、染料にしたり、入れ墨にも使われました。

オヒョウ

ニレ科
ニレ属
樹高
20~25m

葉を食べる
カラスシジミ



四季の観察ポイント

春

4~5月に葉よりも先に花が咲く



風で花粉が運ばれる
風媒花

夏

6月頃に種子が熟す



葉は大小形状不定で
葉脚（葉の付け根）が左右不揃い

秋

黄葉する



倒木や切り株に発生する
タモギタケ

冬



冬芽



成長すると灰色の樹皮が薄く剥がれる

樹皮を食べるエゾシカ



オヒョウはハルニレと共に道内において最も早く開花・結実する木です。他の木の下など光の届きにくい場所でも成長できる耐陰性の強い木ですが、水はけの悪い土地では育ちません。水はけの良い肥沃な土地を好むため、河川中上流域の斜面に、カツラやヤチダモ、ハルニレなどと共に生育します。

1980年代以降、エゾシカによる冬の樹皮食害によって枯れる木が増え、資源の枯渇が心配されています。

リン子の絵日記

オヒヨウ

おもしろい形の葉っぱだね！

オヒヨウの葉は形が多様で一枚として同じものはないと言われているよ。

アイヌ民族はオヒヨウの樹皮からアットウシという布を作ってきた。

① 木が水を多く吸い上げる春にオヒヨウの樹皮を剥ぐ。内皮だけ持ち帰る。

② 木の灰などを入れて皮を煮る。洗って乾かして保存する。

④ 細かく糸状に裂き一本ずつ指で結び縀りをかけて繫ぐ。

③ 湿らせた内皮を薄く剥いでいく。

⑤ 出来上がったカタク(糸玉)を織り手が腰機(後帯機)で織っていく。

オヒヨウの葉と同じく一つとして同じものはない伝統的工芸品だ。

この伝統を守るためオヒヨウの育成も進められているよ。

こうしてできたアットウシは水に強く通気性に優れた独特な風合いを持つすてき！！

オヒヨウとくわいのつなご

オヒヨウの材は重く堅いため、器具材(挽物細工)、家具材、合板材などに用いられます。道内のオヒヨウは内装材として、ミスナラ、ハリギリに次いで高く評価され、1950年代にはイギリスなどに大量に輸出されていました。

アイヌ民族とオヒヨウ

アイヌ民族がオヒヨウの木の皮から作るアットウシという布の中でも、沙流川流域の「二風合アットウシ」は平成25年に経済産業省から伝統的工芸品に指定されました。



アットウシで一反(二着分)の着物を作るには、胸高直径20〜30cmのオヒヨウ一本が必要ですが、過去の伐採や近年のシカによる食害でオヒヨウの枯渇が心配されています。そこで道と国は資源の把握と採取区域の設定、育成を進め、オヒヨウの安定確保と利用を目指しています。



食害を防ぐためのネット

四季の観察ポイント

春

雌花は前年の
枝につく

雄花



葉先の小さな
昆虫を食べる
キクイタダキ

夏



葉の断面は
四角形



秋

まつぼっくりは
エゾマツより
細い



エゾリスに食べられた
まつぼっくりの芯



共生するマツタケ

冬

冬芽は松ヤニに覆われる



樹皮はエゾマツと比べ
ガサガサと粗い

新葉を食べる
アカエゾマツハバチ



アカエゾマツ

マツ科

トウヒ属

樹高

30 ~ 40m

アカエゾマツは北海道を代表する針葉樹で、エゾマツと共に「北海道の木」に選定されています。エゾマツと比べて樹皮が粗く赤いことからアカエゾマツの名前がつけました。湿原に近い場所や砂地、岩場など他の樹種が育ちにくい場所でも自生しますが、成長が非常に遅く、また暑さには弱いです。特殊な土壌の場所や湿原などで純林を形成することもあります。

アカエゾマツ

かりんちゃんピアノ上手！
すっごくいい音だね。
ひいおばあ様から
受け継いだピアノですの。



ピアノの
心臓は弦の音
を豊かに響かせる
響板！

このグランドピアノには最上級の北海道産
天然アカエゾマツが使われていますの。

昔は樹齢数百年の
天然アカエゾマツ
が国産ピアノの
主流でしたのよ。



さらにアカエゾマツ
から抽出された
精油は、いやしの
アロマの他、
色々な効果
が期待されて
いますのよ。

豊かな音色に
いやしの香り…

アカエゾマツは五感で楽しむ
北海道のソウルウッド。



近年は人工林アカエゾマツの
活用に向けて、枝打ちなど
手入れが行われていますわ。



枝打ち

枝を切り落とし
節のない材を
育てる作業。

アカエゾマツとピアノのつながり

アカエゾマツの材は均質で緻密で美しく、
ピアノの響板など高級楽器材として重宝さ
れ、かつては国産ピアノの主流でした。その
後天然アカエゾマツ原木の減少により、輸入
材に代わりましたが、近年再びピアノ材とし
て活用すべく、地元や行政、企業が協力して
アカエゾマツの手入れを進めています。

また抽出された精油は
アロマの他、その抗菌効
果が獣医医療へ応用され
ることが期待され、
研究が進んでいます。



樹形が美しく葉
が他のマツと比べ
て小さいため、盆
栽の世界でも重宝
されています。



アイヌ民族とアカエゾマツ

アカエゾマツはアイヌ語でイウオロスンク
（山奥のエゾマツ）と呼ばれます。チカフスンク
（鳥のエゾマツ）と呼ぶ地域もあります。
弦楽器のトンコリの材料にも使われます。

ミズナラ

四季の観察ポイント

春

冬芽は遅霜に対応して一度に開かず、一部を保存する

アイノミドリシジミの幼虫は新芽を食べる



雌花

雄花

夏

少しずつ大きくなる堅果（ドングリ）



樹液を吸いに来るクワガタムシ



ブナ科
コナラ属
樹高 30m



カケスやヤリスによる種子散布

秋

堅果は落葉の下で根を出し冬を越す



古木や倒木にはシイタケやマイタケが天然発生する



樹皮は灰褐色で縦に不規則な割れ目

冬

冬芽は真上から見ると五角形に見える



ミズナラは日本の冷温帯落葉広葉樹林を代表する木で、北海道から本州・四国・九州に広く分布します。北海道では北側以外の斜面を好むとされ、樹高30m、胸高直径2mにも成長し、純林に近い林も見られます。

ミズナラのドングリ（堅果）は、大きく栄養豊富なため、ヒグマやエゾシカ、タヌキ、キツネ、ネズミ、リスなど様々な動物の工サとなり散布されます。動物たちに散布してもらったミズナラは、その年の内に根を出し、落ち葉と雪の下で越冬します。

リン子・絵日記

ミスナラ

どんぐり
どんぐり
ころころ

北海道のどんぐりと
いえばミスナラ。
栄養満点のどんぐりは
たくさん動物たちの
秋のごちそうだ。

古いミスナラの幹には
マイタケなどのきのこも
出るよ。

ミスナラは名前の通り水を多く含む木だ。重く、堅く、どっしりとして木目も美しいから、高級家具材や内装材に活用されているよ。

おもしろい
木目があるね!

虎の模様のようなから
「虎斑」と呼ばれているんだ。

また、若いときの成長も早いから、木炭や、シイタケ栽培の原木にも利用できる。

切り株から
たくさん芽が
でている!

萌芽だね。
育てて切つてを
繰り返せるんだ。

約20年後

枝を大きく張り、
500年以上の寿命
を持つミスナラは、
ヨーロッパ
で「森の王」と
呼ばれているよ。

動物にも、きのこ
にも、人にも役に
立ってくれる、
森の優しい王様だね

ミスナラとくらしのつながり

北海道のミスナラは「ジャバニーズ・オーク」とも呼ばれ、昭和40年代までは高級材として欧州にさかんに輸出されていました。また、ミスナラは材にタンニンやポリフェノールといったワインやウイスキーの熟成に適する成分を多く含み、お酒の漏れもほとんどないため、洋酒の酒樽として重宝されています。



若い切り株からは盛んに萌芽するので、約20年サイクルで育てれば、シイタケを栽培する時に菌を植え付ける原木（ほだ木）や薪炭材（炭を作る材）として循環利用できます。

アイヌ民族とミスナラ

ミスナラはアイヌ語で「ペロニ」（「ペロ」は「どんぐり」と呼ばれ、実を茹でてから干して保存食としていました。挽いてお餅のようにして食べていた地域もあります。三つ股になっている木は、山の神の木であるとして、特に大切にされました。

四季の観察ポイント

春

5～7月に
小さく白い花が穂咲きする



夏

黄緑の実が
鈴なりに実る



秋

美しい紅葉
実も紅く色づく



冬

冬芽は
べとべと
している



実は熟しきつた
後にウソや
レンジャク等
野鳥が食べに
やってくる

落葉後も
赤い実が
残る

実を食べにくる
ヒグマ



幹は淡褐色で
楕円形の皮目あり
成木になると暗灰色
で浅くさける

花の蜜を吸いに来る
ハナバチやハナアブ



ナナカマド

バラ科
ナナカマド属
樹高 10～15m

ナナカマドは北海道の森林の中で普通にみられる木です。春に穂咲きになる白い花や、秋に真っ赤に色づく葉、冬に雪をかぶっても残る赤い実が美しいことから、庭や公園、街路樹としても親しまれています。

ナナカマドの実には保存料（ソルビン酸）と微量な毒成分（アミグダリン）が含まれているため、冬の間も腐ることなく枝に残ります。この毒は寒さで実が凍ると分解されるため、寒さが厳しくなって初めて野鳥たちは実を食べるようになります。

6月

わあっ
きれいな白い
花だね!

ナナカマドですわ。

花言葉は

「安全・用心・慎重」

交通事故防止の
願いを込めて

街路樹として
植えられていますのよ。

だからナナカマドは道内で、市町村の木
としての指定が最も多いんだ。

ナナカマド

ハナバチ

12月

真っ赤な実が
真っ白な雪を
かぶっているよ。

ナナカマドの実には
保存料や毒成分が入っているから、
腐らず食べられないんだって。

2月

実が凍ると
毒がなくなる
んだって。

うーさぶさぶっ
あ、レンジャク

ヒレンジャク

だから寒くなると
野鳥が食べに
来るんだ。
鳥たちはよく
知ってるね!

ナナカマドとくわいごついのながら

「七回かまどに入れても燃えないからナナカマド」とよく言われますが、実際は燃えにくいわけではありません。材が固く、木目が緻密であることから、家具材の他、じつくりと炭化させることで極上の堅炭（堅い炭）となります。

花言葉が「安全・用心・慎重」であることから、交通安全への願いを込めて、道内あちこちの市町村で街路樹として植えられています。



ナナカマドの炭

アイヌ民族とナナカマド

アイヌ語ではアペニ（火の木）、カムマニ（肉を焼く木）等の他、エソノウワミスサクラと一緒にキキンニ（危険を追い払う木）と呼んだりします。

この木の独特なにおいは、病気を遠ざける力があるとされ、実や樹皮を薬用に用いました。

また材は器具材として使用したり、魔人を退ける木幣を作ったりしました。

カラマツ

四季の観察ポイント

春 かわいい花と新葉が展開する

雄花は下を向く

パイナップルのような雌花は上を向く

夏 丸みのあるまつぼっくりをつける

秋

葉は黄金色に黄葉し
まつぼっくりが熟す

種子

冬 針葉樹だが落葉する

冬芽はらせん状につく

枝の先端の頂芽

灰褐色で細長い縦の鱗状の樹皮

マツ科
カラマツ属
樹高 20～40m

カラマツと共生し
秋に発生するハナイグチ (右)
とシロヌメリイグチ (左)

樹皮を食害する
エソヤチネズミ

カラマツは日本に自生する針葉樹では珍しく冬に落葉する木です。北海道には自生していませんでしたが、明治13(1880)年に長野県から移入されたのが最初とされています。気候や土壌が合い、成長が速いことから明治30年頃には全道各地で大規模造林が行われました。

エソヤチネズミによる樹皮食害を受けやすいため、食害抵抗性の高いグイマツとの間で品種改良が行われています。

春先の新葉の展開、秋の黄葉が美しく、目を楽ませてもらえる木です。

森全体がまっ黄色!

カラマツの黄葉はみごとだね



カラマツは明治13(1880)年に長野県から北海道へ移入されたのが最初とされている。

苗木の活着が良く、成長も早かったため、全国各地で植林されカラマツ林が広がったんだ。

道内人工林の約3割がカラマツ林だよ



あつラクヨウキノコ発見!
本名ハナイグチだね。カラマツ林にしか出ないキノコだよ。

ハナイグチはカラマツから養分をもらう代わりに、無数に広げた菌糸で集めたリンや窒素、水分をカラマツに与えているよ。

本当だ。根の部分が膨らんでる!

キノコ(菌)と共生した菌根だ。お互い助け合って生きているんだ。



カラマツとくふしのつながり

カラマツの材は、若いうちはねじれ、節などの欠点が多いとされてきましたが、高齡木になるとこれらの欠点も少なくなり、重厚で強度もヒノキと同等以上になります。かつての大規模造林は、将来の炭鉱の坑木を確保する目的などで行われましたが、そのカラマツが利用に適した大きさまで成長した近年、新たな乾燥方法なども開発され、温かみのある色味とはつきりとした木目の美しさから、建築・内装材などとしての活用がひろがっています。



裸足が心地いいカラマツのフローリング

カラマツ林に発生するハナイグチは、通称「ラクヨウキノコ」と呼ばれ、ぬめりが多く、おみそ汁などに入れるととても美味しく、北海道民にとって最も身近な野生キノコの一つです。このキノコ(菌)はカラマツと共生して生きているため、人工栽培はできず、まさにカラマツ林のめぐみといえます。

四季の観察ポイント

春

花と葉がほぼ同時に開く

葉ははじめ
赤みがかかる

夏

実は熟すと
緑→赤→黒紫色と
変化する

秋

紅葉は
赤・黄・橙色
と多様

冬

冬芽には
花芽と葉芽
がある

芽鱗が粘る



花の蜜を吸う
ヒヨドリや
ミツバチ



エゾヤマザクラ

バラ科
サクラ属
樹高 15～20m

葉の柄にある蜜腺
の蜜を吸いに来た
アリ



春に周辺の
地面から出る
アミガサタケ



花をちぎり取って
蜜を吸うスズメ
(盗蜜という)



別名オオヤマザクラやベニヤマザクラとも呼ばれます。
北海道の山では、他にチシマザクラ、ミヤマザクラ、カスミザクラ等が見られます。

北海道のサクラといえばエゾヤマザクラ。寒さに強く、日本で十種類ある野生のサクラの中で花の色が濃く、厳しい冬の寒さでより色味が増します。春に花が咲くと同時に赤みがかかった葉も開くため、余計に枝先が赤く見えます。



樹皮は横に皮目が入る

リン子の絵日記

桜色々々

エソヤマザクラ

エソヤマザクラは
やっぱり花の色が
濃くて鮮やかね。

ソメイヨシノも
きれいだわ〜

少し遅れて咲く
カスミザクラも
可憐だね。

ライラックと同じ
時期に咲く
チシマザクラは
低木で香りがあるよ。

サクラ開花宣言 標本木

- ② ソメイヨシノ
- ① エソヤマザクラ
- ④ チシマザクラ

カスミザクラ

ソメイヨシノ

ちなみに、春に出されるサクラ開花宣言の
標本木は、地域によってサクラの種類が違うんだ。



あら？
花がまるごと落ちてくるわ。

スズメの作業だね。

スズメは、サクラの
花をちぎり取って
蜜を吸うんだ。

花より団子ね〜

こっちも花より
お肉だね。

いっただきま〜す!!

北海道名物
サクラの下でジンギスカン!

エソヤマザクラとくらしとのつながり

エソヤマザクラやヤマザクラは、木目が緻密で堅いことから、昔は浮世絵の版木や和菓子の木型に使われていました。今でも家具材として利用されます。

樹皮はなめらかで光沢があることから、榊細工と呼ばれる工芸品に利用され、また材はほのかにいい香りがすることから、燻製を作るチップとしても利用されています。



アイヌ民族とエソヤマザクラ

エソヤマザクラはアイヌ語で「カリンパニ（桜皮の木）」と呼ばれ、樹皮を弓矢に巻いたり、小物に張り付けたりしました。



四季の観察ポイント

春 葉よりも先に花が咲く



夏 初夏に大量の実がつく



ほぼ円形の樹冠

実を食べる
エゾリス



ハルニレ



葉の基部は
左右非対称



秋

紅葉するものも
あるが、暖地では
綺麗に色づかない



ニレ属によく発生する
タモギタケ

ニレ科
ニレ属
樹高 30m

エゾシカが
好んで樹皮を
食べる



冬

冬芽には
花芽と葉芽
がある



樹皮は灰褐色で
縦に細かい割れ目が入る

ハルニレは樹皮をはぐとネバネバの液が出てくるため、「ぬれの木」が転訛して「ニレ」となったとされています。エルムという愛称でも親しまれ、壮大で重厚な樹形から、人の集う公園や広場に安らぎの木陰を提供する木として親しまれています。

肥沃で湿潤な環境を好む、北海道全域で見られる木で早春に葉よりも早く小さく目立たない花をつけ、初夏には大量の実をならせません。

リン子の絵日記

ハルニレ

今日は暑いね！
あの木陰で
休んでいこう

ハルニレだね。大きくて
美しい樹形で休むには
ぴったりだね。

アイヌの人々は
ハルニレを美しい
女神として
称えているよ

肥沃で洪水被害の少
ない場所に生育する
ハルニレは、開拓者
にとって安全で豊か
な土地の目印として、
村を作る目安になっ
た。

材は火持ちの良
い薪としても重
宝したんだよ。

ニレ属の仲間には全世界
の森に分布し、優美な
姿から公園などでも親
しまれてきた。
ところが近年キクイム
シの運ぶニレ立枯病が
急速に拡大

セシジキクイムシ
海外でニレ立枯病の
媒介役となる

ヨーロッパや
北アメリカの
ニレは絶滅の
危機にあるん
だ。

日本のハルニレはこの病気に
ある程度抵抗性があるんだ。

頑張り
女神の木！

ハルニレとくらしのつながり

ハルニレはアカダモ、ケヤキニレとも呼ばれ、材は重く堅いことから加工は難しいです。しかし粘りがあるため曲木に適し、かつては車輪に用いられました。また、白や杵、太鼓の胴、器具材、家具材等として使われています。

ヌルヌルした樹液は和紙のつなぎとして、また樹皮を叩いて潰したものは楡麩と呼ばれ、瓦の接着剤とされました。



白と杵

アイヌ民族とハルニレ

アイヌの人々はハルニレの材を擦って火を起こしたため「チキサニ（我ら擦る火）」と呼び、神の位で最高の「火の神」として敬いました。

ハルニレの材を擦って火をおこす



ユカラでは、ハルニレは天上の神々が見とれるほど美しい女神とされ、彼女に見とれて空から落ちた雷神との間に人祖アイヌラックルが生まれたとされています。

シナノキ

四季の観察ポイント

春



葉は
ハート形

夏



開花は6～7月
レモンのような
甘い香り

秋



実はプロペラ状の
総苞葉にぶら下がっており、
風に乗って
遠くまで飛ぶ



花の蜜を集める
ミツバチ

冬



一年生枝は黄～赤褐色
冬芽の芽鱗は大小2枚



アオイ科

シナノキ属

樹高 20～25m

養蜂家が
蜂蜜を
採取する



北海道から九州まで広く分布する落葉広葉樹。肥沃でやや湿気に富む土地に生え、ハリギリ、ミズナラ、カツラなどと混交し、大きいものでは幹の直径が1mに達します。また、萌芽力が強く、株立ちした樹形もよく見られます。

北海道での開花は6～7月にかけて、道南から道北に移っていきます。レモンのような甘い香りのする花からは良質の蜜が採れるため、養蜂家はシナノキの開花にあわせて各地を移動します。



樹皮は暗褐灰色で
縦に浅く割れ目が入る

わあっかわい
い木彫りの熊！



シナノキから彫られた、背負い熊じゃ。



一昔前、北海道土産といえ
ばこの木彫り熊じゃった。

1922年尾張徳川十九代当主・徳川義親は旅先のスイスで見つけたお土産品の木彫りの熊を、翌1923年かつて尾張藩士達が開拓した道南の八雲に持ち込んだ。



農閑期の貴重な収入源に、また美術に触れて暮らしを豊かにして欲しいという義親の願いと共に、木彫りの熊づくりは全道各地に広がっていったんじゃ。

ほとんどの工芸家は「刃物を痛めない」として、軽く柔らかいシナノキで熊を彫った。



同時に色が白く、木目が穏やかで大きく成長するシナノキは、シナ合板としても活用され、北海道の経済を支えたんじゃ。



さらに花からは蜂蜜もとれる！



私も蜂蜜
大好き！！

シナノキとくらしとのつながり

シナノキの材は他の広葉樹と比べて軽く柔らかく、乾燥や切削などの加工が容易であるため、木彫り熊をはじめとした工芸品や、アイスのスプーンなどに利用されてきました。



シナノキの
スプーン

また、木目は白く穏やかであること、近縁種のオオバボダイジュと合わせると、広葉樹として道内3位の蓄積量があることから、昔は合板の材料として重宝され、道内合板の大部分はシナノキから作られていました。

アイヌ民族とシナノキ

オヒョウと同じく樹皮から糸を作り、背負い袋や、背負い紐の材料、建材の連結紐など、いろいろな用途に使いました。オヒョウより硬いため織物にはあまり向かかなかったようです。

「ニペツ」「シ・ニペツ」と呼びます。

ハンノキ

四季の観察ポイント

春



種子を食べる
カワラヒワ

花は早春の
暖かい日に
あっという間に
開花する

夏



花に次いで
左右非対称の
葉が展開する

幼虫が葉を食べる
ミドリシジミ

カバノキ科
ハンノキ属
樹高 15 ~ 20m

秋



葉を食べる
ハンノキハムシ

まつぼっくり
のような果穂

ヒラタケ(→)
ナメコ等の
栽培に適する
とされる



冬



↑ 雌花序の冬芽

雄花序の冬芽→

葉の入った冬芽は少しべたつく



樹皮は紫褐色で
不規則に浅く裂けて
はがれる

ハンノキは他の木が入れない湿地のよう
な地下水位の高い場所で優占的に生育でき、
別名ヤチハンノキとも呼ばれます。これは
水分が過剰で土壌中の空気が少ない場所でも
樹皮の皮目から地下の根に空気を送る機
構があるためです。また、根には空気中の
窒素を固定できる根粒菌が共生しており、
萌芽更新も旺盛なパイオニア種です。
繁殖力・成長力が高く、条件が良ければ
50年で直径50cm以上に成長することも
ありますが、他の木と比べて寿命は短く、
太く短い人生(木生)です。

リン子の絵日記

ハンノキ

あの木、何が
ぶら下がってる

ハンノキは雄花に雌花、実と、
冬でも色々々とぶら下げて
いるから見分けやすいね。

カワラヒワ

あれは果穂。
中に入っている種子は鳥達
にとつて、餌の少ない冬の
貴重な栄養なんだ。

小さな
まつぼっくり
みたい〜

あれ？ハンノキの根元が
水につかっっちゃってるけど
大丈夫なのかな？

ハンノキは水分が
多いところでは
多くの不定根を
出したり…

皮目から根に

空気を送ったり…

盛んに萌芽
したり…

菌(根粒菌)と
共生して空気中の窒素
を取り込んだりして、他の
木が生きられない湿地でも
成長できるんだ。

バイオニア開拓者
かっこいい！

小さな種子を風で飛ばして
開けた場所で早く成長する
バイオニア種なんだよ。

ハンノキとケヤマハンノキ

材は同じハンノキ属であるケヤマハンノキと混じって「ハンノキ材」として取り扱われることが多く、現在の北海道ではほとんどがパルプや燃料用とされています。

しかし近年、他の広葉樹より短期間で成長し、材が鮮やかなピンク色で柔らかく軽いハンノキの特性を生かして、子供やお年寄りでも扱いやすい器等も作られています。

また、樹皮や果穂からとれるタンニンのは黒や茶褐色の染料として使われます。



ケヤマハンノキの葉と樹皮はハンノキと全く異なる

アイヌ民族とハンノキ

ハンノキはアイヌ語で「ニタツ・ケネ(湿地のハンノキ)」や「サル・ケネ(湿原のハンノキ)」と呼ばれます。「ケネ」は「血になる」という意味で、樹皮を傷つけると赤い液体がにじみ出てきます。枝などを煎じた液を補血剤として用いました。

四季の観察ポイント

春

雄花

雌花

種子を食べる
カワラヒワ (左)
マヒワ (右)

カツラ

開いたばかりの
新葉は紅色

ハート形の葉

夏に伸ばす長枝の
葉はハート形
にならない

夏

バナナのような
袋果の中で
種子が熟す

株立ち
した樹形

カツラ科
カツラ属
樹高 30m

秋

羽のついた種子
羽含めて約 5 mm

春に周辺で
発生する
アミガサタケ

枯葉からは
甘い香りがする

冬

仮頂芽の短枝

仮頂芽

樹皮は暗灰褐色で
縦に浅い割れ目が
少しねじれて入る

カツラは日本にだけ分布する一科一属一種の高木種で、谷に沿った溪畔林でよく見られます。根元近くから何本も株立ちすることが多く、成長も早い、北海道で最も大きくなる木の一つです。

雌雄異株の風媒花で、春に、まず紅色の小さな花を咲かせたのち、葉も紅色で開くため、遠くから見ると山が燃えるように見えます。また、秋の落ち葉は甘いカラメルのような香りがすることから「香出らゝカツラ」の名がついたとされています。

白亜紀の地層から花粉が発見されるなど、太古から生きてきた木です。

リン子の絵日記

カツラ

なんだか甘い香りがするね



秋

立派なカツラだね
北海道で最も
大きくなる木の
ひとつだよ。

秋に枯れた葉からは
甘い香りがするから、
「香出ら〜カツラ」の
名前がついたとされて
いるんだ。



落ち葉
きつたボトル
に入れる

こうすると
香りがよく
わかるよ!



春には紅色の花と新葉が開く。

春

春なのにカツラだけ紅葉
しているみたいに見えるよ。



わあ!
大きな穴!

カツラの大木には
洞がよくできる。

アイヌの人たちは狩りの時、
この洞で風雪をしのいだらしいよ。

また、カツラは丸木舟を作るのにも
一級品として、大切にされていったんだ



カツラとくつろぎのつながり

カツラの材は均一で柔らかいため加工しやすく、また、狂いが少なく、仕上がりが滑らかで光沢もあります。

カツラで作られた碁盤や将棋盤は、長時間打っても疲れないとされました。建築材、家具材、器具材等に利用される他、甘い香りの葉は抹香にしました。

カツラの将棋盤



アイヌ民族とカツラ

アイヌ民族にとって、素直で細工しやすいカツラは、お盆や杵、白など、あらゆる日用道具、そして丸木舟を作るのに最適で、大切な木でした。

木の素性を見極めて、北側の面を船底にするよう船を作ったとされています。

狩りの時はカツラの下で野営をし、洞に入って風雪をしのいだとされています。

アイヌ民族の生活と深くかわって来たカツラには、伝承が数多く残っています。



伐倒の時は、木の神に祈るカムイノミを行った。

四季の観察ポイント

春

雌雄異株



雄花

雌花の多くは2年生枝につく

実はムクドリ、ツグミ、ヤマガラ等様々な野鳥が食べにくる



イチイ

イチイ科
イチイ属
樹高
10～15m

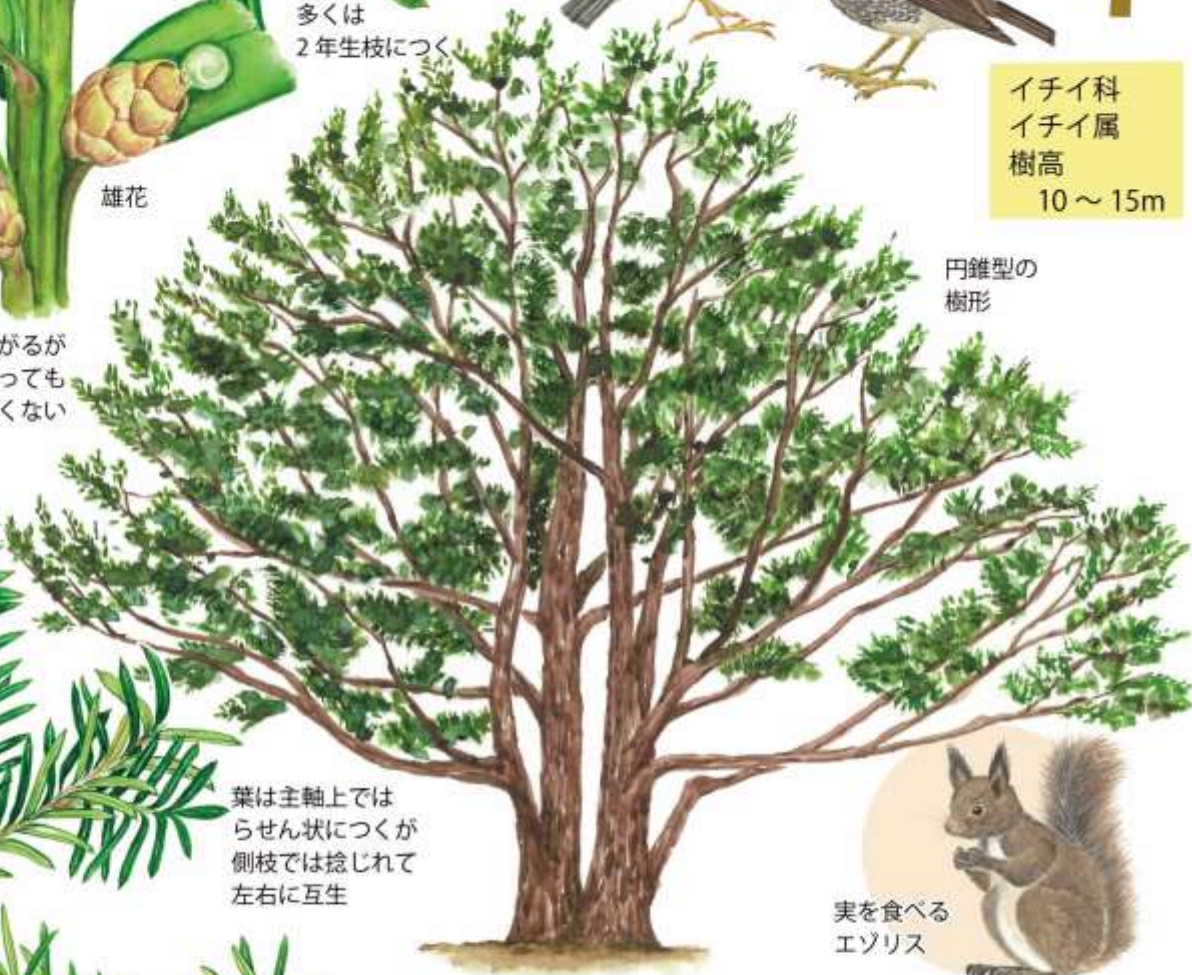
夏

葉はとがるが触っても痛くない



葉は主軸上ではらせん状につくが側枝では捻じれて左右に互生

円錐型の樹形



実を食べるエゾリス



秋

種子は赤い仮種皮に包まれる



種子は5mm位有毒

冬



冬芽



樹皮は赤褐色で薄く浅い裂けめが目立つ

イチイは別名オンコとも呼ばれ、北海道では庭木や生垣などでも親しまれている針葉樹です。
天然ではやや暗い森林の中で多く見られ、成長は遅いです。特殊な条件下で純林を作ることもあります。
実の赤い皮の部分（仮樹皮）は甘く、食べるができますが、この部分以外は有毒アルカロイドのタキシンが含まれているので要注意です。

リン子の絵日記

オンコの実
甘くておいしいー！



オンコは北海道の庭によく植えられているね。全国的にはイチイと呼ぶよ。

イチイ

注) 種に毒があります

イチイの名は昔の高官(えらい人)が持つ笏をイチイの材で作り、その官位(役職名)にちなんで「一位」としたとも言われている。



玉串

北海道では、イチイの枝葉を神様に供える玉串にもしているね。



注) 種に毒があります

実だけじゃなく、幹の中まで赤くて、昔はイチイを使って、布を染めたりもしていたんだ。



蘇芳色(赤紫色)に染まるから、ヤマスオウの別名もあるよ。

実はそのまま食べても果実酒にしてもおいしい。



注) 種に毒があります



注) 本当に強い毒です！

絶対に種を噛んだらいけないよ！



イチイとくらしとのつながり

イチイは成長が遅いため、年輪が詰まり、針葉樹としては硬いです。乾燥や加工が容易で、木肌は緻密で艶と光沢があるため良材とされ、工芸品や器具、彫刻、建築装飾材として利用されます。

また、樹形は端正で整いやすいため、庭木や生垣、盆栽としても親しまれています。北海道では枝葉を、神社で神前に供える玉串として用います。



イチイの玉串



年輪は密に詰まる
紅褐色の心材と辺材の境界が明瞭

アイヌ民族とイチイ

イチイはアイヌ語で「クネニ(弓になる木)」と呼ばれ、この木で作った太い弓は雨や雪にさらしても狂わないとされました。

また、心材から褐色の染料を採り、アツトワシを染めました。実は食用で、心臓や胸の病気に良いとされました。

四季の観察ポイント

春

開葉直後の葉の裏面は脈腋に毛があるが成長すると無毛に

若い枝には鋭いとげがある

夏



葉は掌状で5~9裂
大きい葉は30cmにもなる

球形の散形花序を多数つける

両性花



大木になり枝は太くごつごつ曲がる

実はツグミ、メジロ、ヒヨドリ、ジロハラなど様々な野鳥が食べにくる



秋



実が黒く熟す
実は鳥に食べられ
種子が散布される



冬

太い1年生枝に大型の頂芽と半円型の葉痕が目立つ



樹皮は厚く、縦の割れ目が目立つ
大径木ではとげは突起が残る程度

寒さに強く、冬芽はマイナス70℃でも耐えることができます。

ハリギリは別名センノキとも呼ばれ、北海道から沖縄まで広く分布します。肥沃な土地を好み、成長が速く、高さ30m、直径1mにもなり、開拓時代には土地の肥沃度を判定する指標種とされました。葉が大きく、材質がキリに似ていることからハリギリの名前がついたとされています。

ハリギリ

ウコギ科
ハリギリ属
樹高 30m

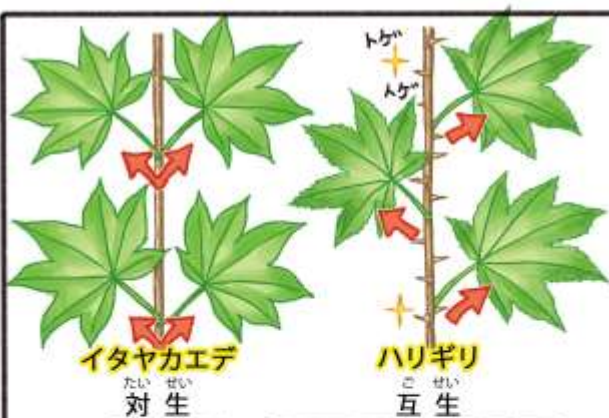
リン子。絵日記

わん
天狗のうちの発見！
せつらん

ハリギリだね。
大きな葉だと
30cm位あるから
コングノハウチワ」
の別名もあるよ。



ハリギリ



イタヤカエデ
たいせい
対生

ハリギリ
こせい
互生

カエテに似ているけど、葉がジグザグと出ること、若い枝にとげがあることで見分けられる。

だからハリギリなんだね。



成長が速く、大木になり、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地に分布しているよ。



鳥が種を運んでくれるんだ

さすが天狗さん！

北海道では「家具の王様」として使われてきたほか、

開拓時代には、豊かな土地の目印になったり、下駄材にも使われていたんだ。



君のげたもハリギリ製？

ハリギリとくまのつながり

ハリギリは木目が高級材のケヤキに似ており、程よい硬さで加工しやすく、仕上げた面に光沢がでる良材です。

家具や合板などに利用され、主産地の北海道では「家具の王様」とされてきました。

年輪が広い材は硬く「オニセン」、年輪が狭い材は柔らかく「ヌカセン」と呼ばれ区別されます。

昔は下駄材にも使われていました。若芽は山菜として人気があります。



昔は下駄材としてキリやハリギリが利用されていました

アイヌ民族とハリギリ

アイヌ民族はハリギリを「とげのある木」の意味である「アイウシニ（アユシニ）」と呼びました。

お盆や木鉢、白や杵など日用的な細工に用いたほか、丸木舟にも利用したそうです。



「アイ」はアイヌ語で「とげ」の意味です

ホオノキ

四季の観察ポイント

春

薄紅色の
托葉は
すぐに落ちる

夏

花は大きく目立つが蜜はない
バナナのような強い香り

秋

← 熟しつつある果実
袋果が集まっている

完全に熟すと
重みで垂れ下がる

赤い仮種皮と種子

赤い実は
ヤマガラ等
様々な野鳥の
餌になる

冬

筆のように
大きな冬芽
芽鱗は2枚

枝を一周する
托葉跡がある

樹皮は灰褐色
平滑で
白い皮目が多い

枝が少なく
真っすぐで
すんなりした樹形
株立ち状のものもある

モクレン科
モクレン属
樹高
20 ~ 30m

球果を腐朽する
ホソツクシタケ

ホオノキは山地の肥沃な場所を好む木です。日本の広葉樹の中で最も大きな葉をつけ、その葉で食材を包んだりことから「包（ホウ）」＝ホオノキとされたようです。大型の花に蜜はなく、強い香りで虫を呼んで受粉させます。花は3日間ほど咲き、前半は雌しべを、後半は雄しべを張り出して、自花受粉を防ぎます。葉や根から他の植物を芽生えさせない物質を出します（アレロパシー）。

ホオノキ

うわー
葉にお寿司が
包まれている！
おいしそう？

朴葉寿司だよ。

酢飯に

魚や山菜を

具としてのせて

ホオノキの葉で

包んだ料理さ。

ホオノキの葉には殺菌効果があるから、昔から色々な食材を包むのに使われてきたのさ。

ほおぼ 朴葉もち

ほおぼ や 朴葉焼き

山・畑作業の
お弁当に最適

こんなに大きいと
包みやすいもんね。

ほおぼ 朴葉寿司

中部・近畿地方（岐阜・長野・奈良など）に伝わる郷土料理

北海道版の
百人一首

「板かるた」の

取り札には

ホオノキの材が
使われているよ。

不思議な
文字！

変体仮名さ。

ホオノキの板も
緑っぽい不思議な色だね。

あと、ホオノキの実は
お茶にもなるんだ。

① 実（果実）を水で
きれいに洗う

② やかんに入
れてしばし沸騰

大きな実なら
1個で10L
分のお茶が
できるよ。

板かるた

上の句ではなく、下の句を読みあげて、くずし字で書かれた木札を取り合う。別名「下の句かるた」

ホオノキとくわいとのつながり

ホオノキの材は日本では珍しい緑がかつた色をしています。ほど良い硬さで、緻密（散孔材）。暴れや割れが少ないことから細工材として重宝され、日本刀の鞘、版木、箱、椀などに使用されます。

北海道版の百人一首「板かるた」の取り札はホオノキの材で作られています。

大きな葉は朴葉味噌や朴葉寿司など、食材を包むのに使用され、樹皮は健胃や利尿、下痢止めの薬になります。

アイヌ民族とホオノキ

ホオノキは冬芽が大きく尖っていることからアイヌ語で「プシニ（突き出た木）」と呼ばれたとの説があります。

加工しやすいかつたので、弓の矢を入れる矢筒など細工物を作るのに利用しました。

また種子や果実を煎じて、リウマチや神経痛、風邪薬にしたそうです。

←ホオノキの矢筒



北海道の森林

北海道は森林面積が554万ヘクタール森林率は71%と日本の森林の22%を占め、全国で一番の森林面積を誇ります。

この広大で豊かな森林は、オジロワシやシマフクロウ、ヒグマといった貴重な野生動物が数多く生息するだけでなく、私たちの生活に必要な水や酸素の供給、土壌の保全を通しての災害の防止等、人間の生活も守ってくれています。

今でこそ豊かな北海道の森林ですが、戦後には物資の不足等の理由から過度に伐採され、荒廃した時期がありました。

その際、森を復活させるために先人達が植林し育てた木々が、50~60年たった現在、収穫の時期を迎えています。

人が育てた森林は、伐って・使って・植えて・育てるを繰り返すことで健全に維持されます。

木は人が手を加えれば50~100年で再び利用できるまで成長する循環可能な資源です。

私たちが正しく木を使い、また育てることが豊かな森林と

その恵みを次世代に受け渡すことにつながるのです。



北海道の木のえほん 掲載樹種

2024年4月時点 Ver.0.96

1. トドマツ
2. エゾマツ
3. シラカンバ
4. アオダモ
5. オヒョウ
6. アカエゾマツ
7. ミズナラ
8. ナナカマド
9. カラマツ
10. エゾヤマザクラ
11. ハルニレ
12. シナノキ
13. ハンノキ
14. カツラ
15. イチイ
16. ハリギリ
17. ホオノキ



他の漫画含む全ての作品は、北海道森林管理局のホームページからご覧いただけます。

「北海道の木のえほん」は作成にあたり「北海道大学農学部と北海道森林管理局との連携協定」に基づき農学部の監修をいただきました。

またアイヌ文化の紹介に関しましては、株式会社平取町アイヌ文化振興公社様にご協力をいただいております。